

## 陳述書

申立人 父親 X

平成 18 年 3 月 3 日～3 月 5 日にかけて、娘、A 子との宿泊面接交渉を実施した際、非常に気になる点が見受けられたので、以下、陳述します。

### 1. 面接の概要

3 月 3 日 AM 8 : 0 0, ○○市コープ前路上にて相手方より A 子を引き取る。

AM 1 1 : 0 0 実家に到着。すぐに制服に着替え、○○町立○○幼稚園に登園する。メロン組の園児たち、先生に歓迎されながら一緒に昼食をとる。PM 2 : 0 0 頃まで皆と一緒に遊び、名残を惜しみつつ退園。しばし実家にて過ごす。夕方より従兄弟が遊びにきて皆で楽しく遊ぶ。夕食後、近くの遊興施設に行きたいとせがむので、私と 2 人で外出。帰宅後、2 人で風呂に入り、絵を描いたり、パソコン、パズルなどして遊ぶ。

3 月 4 日 AM 9 : 0 0 起床。朝食後、しばし家中で遊ぶ。その後以前から大好きだった公園に行きたいとせがむので、買い物をしつつ公園へ行く。三輪車に乗ったりして夕方まで過ごす。帰宅・夕食後、以前時々いていた銭湯に行きたいとせがむので、連れて行く。帰りにビデオを借り、家で見る。少し遊んでから就寝。

3 月 5 日 AM 1 0 : 0 0 頃起床、朝食後、○○○子供の国へ行きたいとせがむが、時間的に無理なので、なだめると、3 日にいった遊興施設へもう一度いきたいと言う。そこならば多少時間がとれるので、行くことにする。家を発つ際、私の母がさよならを言うと、突然はげしく泣き出す。私が抱っこしてなんとかなだめる。遊興施設にいき、機嫌よく遊んでいたが、私が「もう、いかなきゃならない……」と言うとしがみついて「いやだ、行きたくない。おじいちゃん、おばあちゃんとか帰る」と烈しく泣く。遊興施設の係員がびっくりしてのぞきにきた。なんとかなだめ、○○にむけて出発する。道中、赤穂あたりまでは機嫌がよく、2 人で歌を歌ったりしりとりをしたりしていたが、○○が近づくにつれそわそわし始め、「どこいきよん」ときくので「……コープ」と答えると、「いやだ、コープいかない！おじいちゃん、おばあちゃんとか行く」と泣き始める。以後、到着までの間、「おじいちゃん、おばあちゃんとか行きたい」「おとうさんがいい」「我慢できん」「こわい、こわい」「裁判所いく！おじちゃんに言う」「おかあさんに話す！自分で言う」と繰り返しながらずっと泣いていた。相手方から電話がかかってくると、「出たらいかん！」と言って、手を押さえにくる。○○のコープが近づくにつれ泣き方も烈しくなり、到着時には泣き叫んでいた。相手方が近づいてくると、嫌がって顔をそむけ、私にしがみついてはなれない。車の

ドアを開けるのも嫌がるので、車内に残し、外に出て相手方と話しあうが、話しにならない。その後1時間ほど車内で抱っこしてやっていると、泣き止んだが、外に連れ出そうとすると、また烈しく泣く。どうしていいかわからず実家に電話すると、とにかくいい雰囲気をつくれと言うアドバイスだったので、相手方に3人で食事に行こうと提案する。相手が承諾したので、A子に「おとうさんもいっしょに行くからごはん食べに行こう」と繰り返すと、すこしづつ和みはじめる。レストランでは「大丈夫、我慢できる」と言い、相手とも普通にしゃべれるようになっていた。又、ふだんあまり食べ物に興味を示さない娘がピザをたிரげたうえ、私の母の手作りおすしを食べるといいはり、少しでもこの時間を引き延ばそうとしている様子が伺えたが、無理に食べるのはよくないので、「おとうさんA子ちゃんの気持ちはよくわかってるから」と言ってきかせる。別れぎわに「大丈夫か?」と問うと、寂しそうな顔をしてうつむいていた。

## 2 A子の様子で気になった点

公園へ言った際、機嫌よく遊んでいたのに、突然些細なことで泣き始め、精神的不安定さが伺えた。

前回、宿泊時、又毎月の面接でも見受けられたが、A子が私と離れ、母親のもとへ帰るのを嫌がるさまは、異常と認められる程である。言葉で十分意志表示できない4歳の子の、これが自分にできる精一杯の抵抗と知りながら、相手方のもとに帰らせる私の心は張り裂けんばかりである。

以上の実情を十分に配慮して、A子の福祉のために親権変更を認めて頂きたく、お願い致します。

平成18年3月14日  
申立人 父親X